

ハイデガー・フォーラム第17回大会

応募要旨4

(統一テーマ：自然と技術への問いII)

ハイデガーはロマン主義者か？

『存在と時間』の著者ハイデガーを「ロマン主義者」と呼ぶことについては、若干の躊躇とともに少なからぬ議論を要するかもしれない。しかし、まさに『存在と時間』の自然把握において、「ロマン主義の自然概念 (das Naturbegriffes der Romantik)」という語が—文脈上、これもハイデガーの言う世界内存在の世界概念に基づいて初めて存在論的に把握されうるのだという副次的な意味においてであれ—用いられていることからすれば、ハイデガーの思惟の内でのロマン主義の位置づけを考察することも意味のないことではないであろう。特に『存在と時間』刊行後の1929年の『根拠の本質について』の註の中で、当該箇所と言及しつつ、「現存在の分析論の中で一見したところ、自然が—自然科学の対象としての自然だけでなく、根源的な意味における自然さえもが（それについては、『存在と時間』65ページ、下を参照）—欠けているように見えるならば、その場合、それにはいくつかの根拠が存する」と註釈することを勘案するならばなおさらである。つまり、ハイデガーは『存在と時間』の現存在の分析論の中では、現存在が自らを関与させるものとしての手許的な存在者が存在する世界の内には根源的な意味での「自然」は（自然科学の対象としての「自然」とともに）出会われえなかったのだと考えられている。そうであるとすれば、ここでは世界内存在する現存在の世界の内ではさしあたって大抵は出会われえないものとしてではあれ、「根源的な意味における自然」がハイデガーの視野の内に入っていたということが確認できるとともに、『存在と時間』においてはそれが十分には展開されなかったということをハイデガー自身が自覚していたということである。この文脈において、「根源的な意味における自然」と呼ばれているものが先の「ロマン主義の自然概念」に通じるものであるとすれば、ハイデガーを「ロマン主義者」と呼ぶことにも一定程度の理由が存すると言うことができよう。

このことについては、すでに『存在と時間』における自然が手許的存在者すなわち道具的存在者の分析の中で出会われるものであるという点から、後の技術論への展開の萌芽を見ることができると同時に、根源的自然とされるものがピュシス (physis) として、存在のあり方と解釈されるようになることを確認することが求められるであろう。

しかし、ここではハイデガーをロマン主義者と同定することに対してもう一つの別の傍証をあげてみたい。ここ数年における「黒表紙のノート」の出版に伴って、人口に膾炙することになった語に「超政治 (Metapolitik)」というものがあるが、この語はハイデガーが「超—政治としての形而上学 (Metaphysik als Meta-politik)」(Bd. 94, S. 116) と称することから、形而上学

(Metaphysik) との連関からハイデガーによって造語されたものと見ることもできる（実際、私自身そう理解していた）。しかし、この語はすでにハイデガー以前に、熱烈なりヒャルト・ワーグナーの支持者であるナショナリストからワーグナーにあてられた公開書簡の中で「ドイツが真のドイツたるためには、政治が超政治に高められねばならない。超政治の政治に対する関係は、形而上学 (metaphysics) の自然学 (physics) に対する関係と共通の歩みをなす」という形で、ドイツの政治の理想を語るために用いられるのが最初である、ということが報告されている (Peter Viereck, *Metapolitics*, 1941)。つまり、「超政治」という概念はそれこそロマン主義者を標榜していたとも言えるワーグナーの思想を名指す語として用いられていた、ということである。さらに、問題的なこととして、この Viereck の書名は文字通り「超政治」であるが、その副題は「ロマン主義からヒトラーへ」である（実際、邦訳にはこちらの副題がタイトルとされている）。このことから我々に課される課題は明白であろう。ハイデガーをロマン主義者と同定することが可能であるとするならば、そのことによってハイデガーがナチズムへと向かう可能性が示唆されることから、我々にはハイデガーの思惟がナチズムに対して有する近さと遠さを的確に把握することが求められることになるであろう。

そこで本稿においては、ハイデガーの思惟における自然把握のあり方と後期技術批判への議論を整理するとともに、こうした思惟がハイデガーの内に認められるロマン主義のあり方との連関を明らかにしたい。それと同時にロマン主義のもとに語られる「超政治」に対するハイデガーの思惟の方向づけを吟味することを試みたい。